

令和7年度 第3回 三ヶ日西小学校 学校運営協議会

令和8年 2月20日(金) 9:00~11:15 会場:3階 会議室
司会【教頭】 記録【CSディレクター】

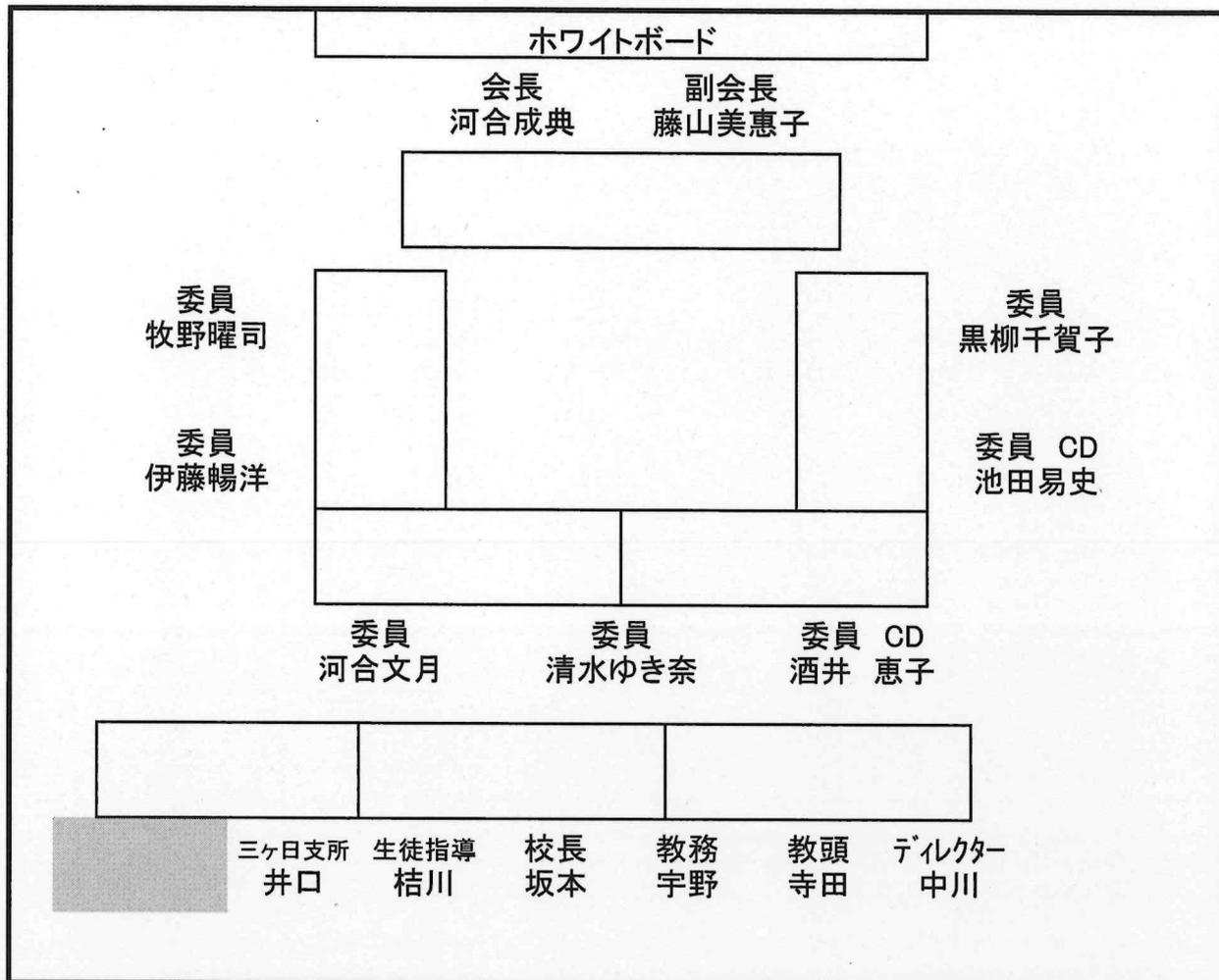
昨年度の取組Bの評価を踏まえた今年度の目標(取組の重点)

○本校がより一層学校運営の基本方針に沿った取り組みを進めていくため、ボランティア活動を深化させていく。主に「ボランティアを采配したり受入等の手立てを負担軽減したりする方法を見出し、持続可能を目指すこと」や「授業内容の充実のため、事前準備や環境整備の活動を立ち上げること」に焦点を当てていく。

- 9:00 1 開会
- 2 日程説明 【教頭】
- 3 会長あいさつ 【会長】
- 4 校長あいさつ 【校長】
- 5 議長選出(前回出席者中より互選で池田さんに決定済) 【教頭】
- 9:10 6 熟議 【議長:池田】
- (1) 「本年度の取り組み」と「学校関係者評価」 【教務】
 学校評価の分析結果と本校が考えている改善策
 ※いじめ防止基本方針に基づく取組状況や目標達成状況についても含む
 →今後の改善策について運営協議会が考えうるアドバイス
- (2) 次年度の学校運営の基本方針の概要説明 【校長】
- (3) 学校運営協議会の自己評価 【会長】
- (4) その他
- 7 連絡 【教頭】
- (1) 次年度 委員について
- (2) 次年度 見通し P3「年間計画」参照
- 10:35 8 授業参観 (25分間) ※3校時 10:20~11:05
 5年生が体育館にて6年生を送る会のリハーサル
- 11:00 移動
- 11:15 9 閉会

学校運営協議会 座席表(3階会議室)

※敬称略



学校運営協議会 名簿

※敬称略

No.	氏名	ふりがな	
1	河合 成典	かわい しげのり	会長(元校長)
2	藤山美恵子	ふじやま みえこ	副会長(元民生・児童委員)
3	河合 文月	かわい ふづき	有識者
4	黒柳千賀子	くろやなぎ ちかこ	主任児童委員
5	牧野 曜司	まきの ようじ	R06 後援会会長
6	伊藤 暢洋	いとう のぶひろ	R04 PTA副会長(保護者)
7	清水ゆき奈	しみず ゆきな	今年度 PTA会長(保護者)
8	池田 易史	いけだ やすし	学校支援コーディネーター
9	酒井 恵子	さかい けいこ	学校支援コーディネーター
10	坂本 友彦	さかもと ともひこ	校長
11	寺田 善一	てらだ よしかず	教頭
12	鈴木美也子	すずき みやこ	CS担当(1年主任)
13	宇野 主馬	うの かずま	教務主任
14	桔川 記子	きっかわ のりこ	生徒指導
15	中川 幸子	なかがわ さちこ	CSディレクター校務アシスタント
16	井口 敏浩	いぐち としひろ	三ヶ日支所職員(オブザーバー)
17			

令和7年度

第3回 学校運営協議会

2月20日(金) 10:35~11:00 (25分間)

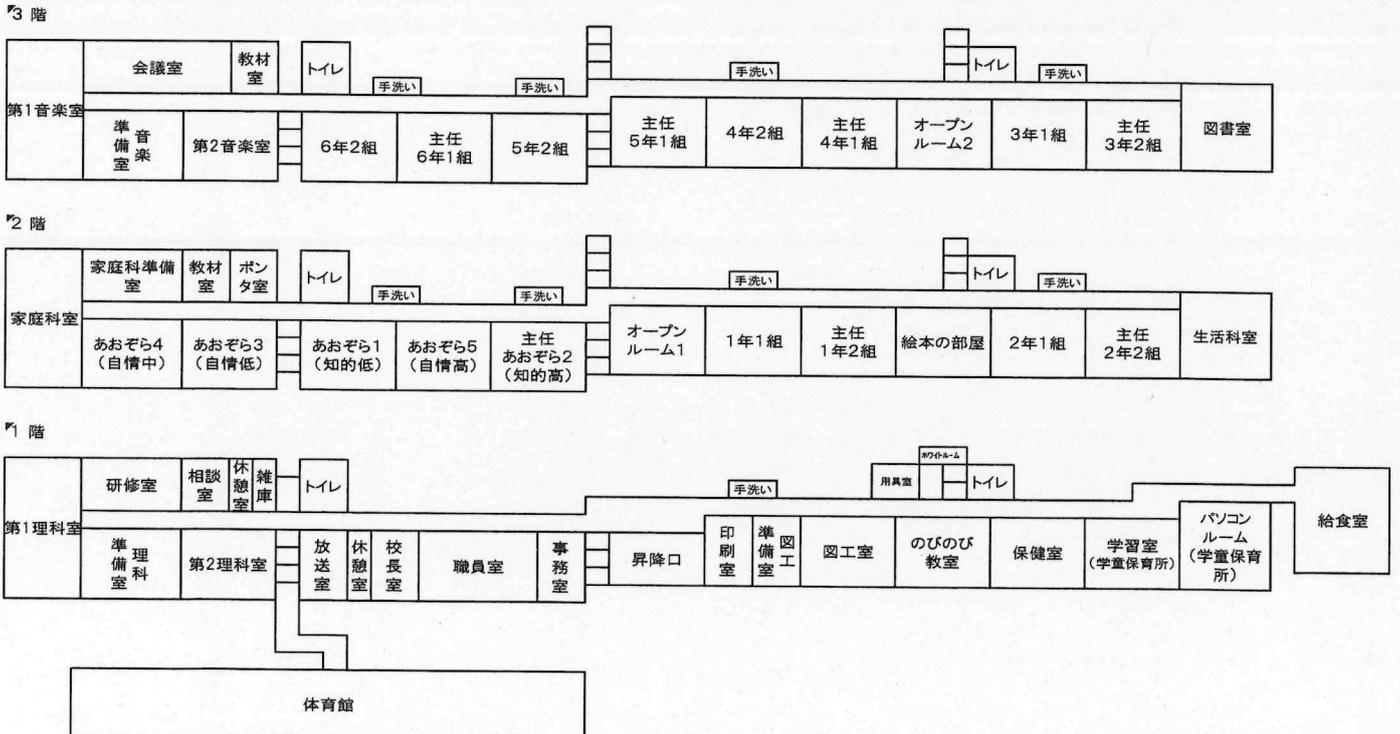
	組	3校時	
		教科等	場所・担当者
1	1	音楽	美也子
	2	体育	智 運動場
2	1	算数	飯田
	2	国語	中村
3	1	算数	水戸
	2	算数	疋田
4	1	6年生を送る会 リハーサル	牧野 中谷 4-1教室
	2		

年	組	3校時	
		教科等	場所・担当者
5	1	6年生を送る会 リハーサル	太田 桔川 体育館
	2		
6	1	算数	伸哉
	2	社会	福留
あおぞら	1	国語	亜希子
	2	算数	樋田
	3	国語	高柳
	4	国語	藤井
	5	国語	笑生

※場所表記無しは教室で行う予定です

令和7年度 教室配置図

三ヶ日西小学校



学校運営協議会 年間計画

令和8年4月1日～令和9年3月31日

回	日時 会場	主な内容 熟議のテーマ	備考
1	4月27日(月) 9:00～11:00 3階会議室←→各教室	◇授業参観 ・「学校経営方針」について ・子供たちの様子 ※「本校いじめ防止基本方針」含む ・「夢育やらまいか事業に対する意見書」について	・午前5時間 ・午後教育相談
2	10月14日(水) 13:10～15:10 3階会議室←→各教室	◇授業参観 ・「学校評価アンケート」について ・次年度の教育課程における検討事項について	・普通日課 ・1年生4時間で 下校のため不在
3	2月10日(水) 9:00～11:15 3階会議室←→体育館	◇授業参観 ・「本年度の取り組み」と「学校関係者評価」 ・学校評価分析結果と本校の改善策 ※「いじめ防止基本方針」に基づく取組状況や目標達成状況含む ・次年度学校運営の基本方針の概要説明 ・学校運営協議会の自己評価	・午前5時間 ・午後教育相談

※委員の過半数の出席がないと開催できません。

※感染症の感染拡大防止等、状況により開催が中止、あるいは延期になる場合があります。

1 目的

各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図るとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。

2 学校評価の実施形態の定義

(1) 自己評価

学校の教職員が行う評価

(2) 学校関係者評価

保護者、地域住民等の学校関係者により構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価

(3) 第三者評価

学校と教育委員会が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について専門的視点から行う評価

↑このために今後の改善方策について熟議していただく。
※できることであれば今年度中から試行を準備がひとつであれば次年度から

3 学校評価の実施

(1) 自己評価

学校は、教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行う。

ア 目標設定

(ア) 目標や教育計画を具体的かつ明確に定める。

(イ) 中期的な学校経営の方針や重点を前年度の評価を生かし精選する。

イ 自己評価の評価項目の設定

(ア) 目標の達成に向けた具体的な取組を項目として設定する。また、項目の達成状況、取組状況の把握のために必要な指標、評価の基準等を設定する。

(イ) 評価項目の例を文末の<参考>に掲載するが、あくまでも例示であり、各学校の目標に照らし具体的かつ明確なものを選択又は設定をする。

ウ 継続的な情報・資料の収集・整理

学校運営に関する様々な情報・資料を継続的に収集・整理し、自己評価の実施や保護者・地域住民等に対する情報提供等に適切に活用する。

エ 自己評価の実施

(ア) 全教職員が組織的に取り組む。必要に応じて自己評価委員会などを校内に設ける。

(イ) 設定した評価項目、指標等を用いて、目標の達成状況や達成に向けた取組の状況を把握・整理する。その整理結果を基に、これまで進めてきた教育活動その他の学校運営に関する取組が適切かどうかを評価し、その結果を踏まえた今後の改善方策を検討する。

(ウ) 自己評価を行う上で、児童生徒、保護者、地域住民から寄せられた具体的な意見や要望、児童生徒による授業評価を含む外部アンケート等の結果を活用する。

(エ) 日常の教育活動の中で見つかった課題については、評価の実施時期にとらわれず、速やかに改善に取り組む。

オ 自己評価の取組等の情報提供

学校は、自己評価の取組状況について、随時、学校便りやホームページ等を通じて公表することで、保護者・地域住民等からの理解や協力を得る。

カ 自己評価の結果の報告書の作成

(ア) 報告書には、自己評価結果や分析に加え、それらを踏まえた今後の改善方策について

て、簡単かつ明瞭に記述する。

(イ) 学校は、児童生徒の個人情報保護や安全確保に留意して、報告書に記述する情報・資料と、非公表とすることがふさわしい情報・資料を区分する。

(2) 学校関係者評価

学校は、自己評価の結果を踏まえた学校関係者による評価を行う。

ア 学校関係者評価委員会の設置

(ア) 新たに組織することに代えて、学校評議員や学校運営協議会等の組織を積極的に活用すること。また、在籍する児童生徒の保護者を評価者に加えることを基本とする。

(イ) 評価者への就任を依頼する際には、学校訪問や評価の取りまとめの作成、児童生徒に関する個人情報の保護、守秘義務など、どのような負担等が生じるかを説明し、あらかじめ評価者の理解を得る。

イ 学校関係者評価の実施

(ア) 学校は、重点目標など具体的な目標や教育計画を含め、教育活動その他の学校運営の状況について学校関係者評価委員会に説明する。

(イ) 学校関係者評価委員会は、評価に先立ち、授業や学校行事の参観、施設・設備の視察、校長など教職員や児童生徒との対話等を行う。

(ウ) 学校関係者評価委員会は、各種の資料の検証や学校の諸活動の参観等を通じて、当該年度の学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価することを基本とする。

ウ 学校関係者評価の結果の報告書の作成

(ア) 学校は、学校関係者評価委員会の評価結果を簡潔かつ明瞭にとりまとめる。

(イ) 学校は、その結果を踏まえ、改めて今後の改善方策について検討し、報告書を作成する。その際、学校関係者評価結果の報告書を自己評価結果の報告書と併せて作成することも考えられる。

(ウ) 学校は、児童生徒の個人情報保護や安全確保に留意して、報告書に記述する情報・資料と、非公表とすることがふさわしい情報・資料を区分する。

(3) 評価結果の公表・説明

学校は、自己評価及び学校関係者評価の結果について、それらを踏まえた今後の改善方策と併せて、広く保護者や地域住民等に公表する。

ア 公表の方法

公表は、次のような方法が考えられる。

(ア) P T A総会等を活用した保護者への説明

(イ) 学校便りや学校のホームページ、地域広報誌への掲載等による保護者や地域住民等への周知

イ 公表に当たっての工夫と留意点

(ア) 公表に当たっては、その受け手として想定される対象に合わせて適宜公表する内容等を工夫する。保護者や地域住民等の立場から公表された情報を見て、学校に共感し、共に努力していこうと思えるようなものとする。

(イ) 単に外部アンケート等の結果の公表ではなく、学校として組織的に学校評価を実施した上での「学校の自己評価・学校関係者評価の結果」であることを明らかにして公表する。

(4) 評価結果と改善方策に基づく取組

学校は、学校評価を実効性のある取組とするため、学校評価の結果並びに今後の改善方策を次年度の重点目標等の設定や取組の改善等に活用する。

4 評価結果の報告と支援・改善

(1) 教育委員会への報告

学校は、3で作成・公表した報告書を当該年度末の指定する日までに教育委員会へ提出する。

(2) 教育委員会による支援・改善

ア 報告書の活用

報告書は教育委員会教育総務課が集約し、各課の資料とする。

イ 評価結果等に基づく学校の支援・改善

教育委員会は、報告書に記載された課題解決に向け、必要な支援や改善のための指導を行う。

附 則

1 この実施要項は、平成20年4月1日から施行する。

2 この要項は、幼稚園においても準用する。

附 則

この実施要項は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この実施要項は、令和2年4月1日から施行する。

<参考> 評価項目を検討する際の視点となる例

- 1 教育課程・学習指導
- 2 キャリア教育（進路指導）
- 3 生徒指導
- 4 保健管理
- 5 安全管理
- 6 発達支援教育
- 7 組織運営
- 8 研修（資質向上の取組）
- 9 教育目標・学校評価
 - (1) 教育目標の設定と自己評価の実施状況
 - (2) 学校関係者評価の実施状況
 - (3) 学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況
- 10 情報提供
- 11 保護者、地域住民等との連携
- 12 教育環境整備
 - (1) 施設・設備
 - (2) 教材・教具等

* 詳細は「学校評価ガイドライン〔平成28年改訂〕49～54ページ【参考2-1】」を参照のこと。文部科学省ホームページでも閲覧可能。

(様式1)

学校番号 (小・**中**)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立() 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- ※ 前年度に協議会で協議した目標を再確認し、委員間で共有する。
- ※ 目標が、会議体として相応しい目標か、学校運営の基本方針に関わることを中心に据えられているか等を確認する。
- ※ 1～2点に絞るとよい。

※ **【重要】** <評価項目1～3>と<来年度の目標>は、委員個人の評価ではなく、協議会としてまとめた評価を記載する。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ **ア** よくできた **イ** できた **ウ** あまりできなかった **エ** できなかった
(理由)

- ※ 参考資料【熟議チェックシート】の評価項目1をもとに、振り返る。
- ※ 委員個人の評価ではなく、協議会としての評価を記載する。
- ※ 学校運営の基本方針(自校の学校教育目標や「育てたい力」等)について、協議した内容を簡潔に評価する。(1～2点でよい。)

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ **ア** よくできた **イ** できた **ウ** あまりできなかった **エ** できなかった
(理由)

- ※ 参考資料【熟議チェックシート】の評価項目2をもとに、振り返る。
- ※ 成果・課題等を簡潔に記載する。方法論だけではなく、「育てたい力」や「目指す子供の姿」とのつながりをポイントにする。(1～2点でよい。)

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ **ア** 充分に行った **イ** 行った **ウ** あまり行わなかった **エ** 行わなかった
(理由)

- ※ 協議会での協議結果(会議録への記載内容等)について、どんな方法による情報発信を行ったか、それによってどのような効果があったのか等を振り返って記載する。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ※ 1～2点に絞り、記載する。
- ※ 学校運営協議会は、会議体であるため、会議体として相応しい目標を設定する。委員が、個人としてボランティア活動に参加することは想定されるが、学校運営協議会がボランティア活動の主体となることは想定していない。

★ 自己評価の結果については、学校ホームページで公表する。

(様式1)

学校番号 (小)・中 113)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(三ヶ日西小)学校運営協議会長

<本年度の目標>

本校がより一層学校運営の基本方針に沿った取り組みを進めていくため、ボランティア活動を深化させていく。主に「ボランティアを采配したり受入等の手立てを負担軽減したりする方法を見出し、持続可能を目指すこと」や「授業内容の充実のため、事前準備や環境整備の活動を立ち上げること」に焦点を当てていく。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

(様式2)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

委員名 ()

<本年度の目標>

- ※ 前年度に協議会で協議した目標を記載する。
- ※ 目標が、会議体として相応しい目標となっているか、また、学校運営の基本方針に関わることを中心に据えられているか等を確認する。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

- ※ 参考資料【熟議チェックシート】の評価項目1をもとに、振り返る。
- ※ 委員個人の評価ではなく、協議会としての視点で評価する。
- ※ 学校運営の基本方針（自校の学校教育目標や「育てたい力」等）について、協議した内容を簡潔に評価する。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

- ※ 参考資料【熟議チェックシート】の評価項目2をもとに、振り返る。
- ※ 委員個人の評価ではなく、協議会としての視点で評価する。
- ※ 成果・課題などを簡潔に記載する。方法論だけではなく、「育てたい力」や「目指す子供の姿」とのつながりをポイントにする。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

- ※ 協議会での協議結果（会議録への記載内容等）について、どんな方法による情報発信を行ったか、それによってどのような効果があったのか等を振り返って記載する。
- ※ 委員個人の評価ではなく、協議会としての視点で評価する。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ※ 委員個人の目標ではなく、協議会の目標を記載する。
- ※ 学校運営協議会は、会議体であるため、会議体として相応しい目標を設定する。委員が、個人としてボランティア活動に参加することは想定されるが、学校運営協議会がボランティア活動の主体となることは想定していない。
- ★ 自己評価の結果については、学校ホームページで公表する。

(様式2)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

委員名 ()

<本年度の目標>

本校がより一層学校運営の基本方針に沿った取り組みを進めていくため、ボランティア活動を深化させていく。主に「ボランティアを采配したり受入等の手立てを負担軽減したりする方法を見出し、持続可能を目指すこと」や「授業内容の充実のため、事前準備や環境整備の活動を立ち上げること」に焦点を当てていく。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

【参考資料】

【 熟議子エックシート 】

氏名 ()

できている もう少し

評価項目 1	校長の説明を聞いて、分からない用語や疑問に感じたことを遠慮なく質問し、それに対して理解・納得できる回答が得られた。		
	基本方針の承認にあたり、校長の説明を聞置けだけでなく、よりよい学校運営のために委員が建設的な意見を発言できた。		
評価項目 2	委員が、学校教育目標や学校運営の基本方針についての内容を理解し、共有した。		
	学校評価などの評価結果を生かした改善について確認した。		
	学校運営について、委員が率直に意見を述べることができた。		
	学校の教育目標と学校支援活動とのつながりを意識して、協議会で協議を重ねた。		
	熟議の結果、学校、家庭、地域がそれぞれ実行すべきこと、役割分担が明確になった。		
	これまで行われてきた学校支援活動についても、教育目標とのつながりや学校、家庭、地域の役割分担を考え、見直すことができた。		
	協議会で決定し、実施した学校支援活動について、振り返りや反省を行った。		



CS だより 第2回学校運営協議会（10月24日）の様子

◇全国学力調査結果考察報告【学校】

- ・国語、算数、理科ともに全国平均、静岡県平均を上回ることができた。家庭学習や授業改善の工夫による効果が上がっているといえる。
- ・読書時間の少なさは課題である。読書習慣の確立や本に触れる機会を増やす工夫などが必要である。

◇学校アンケートについて【委員】

- ・自分で考えて動ける人間になってほしい。
- ・自分の意思をもち積極的に表現できる大人になってほしい。
- ・地域の魅力を活用することができる力を身に付けてほしい。
- ・子供たちに三ヶ日の町の魅力をもっと知ってほしい。



◇各種行事で利用する駐車場について【委員】

- ・人車分離のために、学校の近くで駐車できる場所を今後引き続き検討していかなくてはならない。



◇樹木の処理、および処理場について【委員】

- ・学校から敷地内の樹木の衰えやはみ出しにより、伐採との報告があった。中には伐採することのためられる記念樹などがあり、また伐採した木材を処理する場所がなく処理方法を模索しているとのこと。
- ・自治会を通して相談し、地域に声掛けを行う。地域の力を活用して、学校の抱える課題解決のために連携を図っていく。

<コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）とは？>

コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めています。

※学校運営協議会の中では、授業の様子も参観していただきました。どの子どもも真剣に授業を受けている姿に、委員の皆様が感心されていました。

今回も多くの御意見をいただき、活発な熟議になりました。

